

▼最優秀賞受賞作品（短歌）

インドアの詩^{うた}

児玉亮子

春の陽が桃色の雫煌めかすだんまりフェンスそれを切り取る
子を放つ重圧さえも押しつけて咲くタンポポは母なる強さ
不安げな綿毛を土に置いてやる行き先わからぬ自分のように
うららかな小春日和も一日中パソコンの前インドアの詩^{うた}
糸の線ビーズの音符つむぎあい織りなす楽譜はネックレス
砂時計さらさら光り落ちていくおちていくのに底はないけど
チョコレートひとつで世界きらめいたあの子の私たまに「おかえり」
真夜中の不安な心照らすよにライトはチカチカ瞬いている
また今日も干からびていく自尊心何とかしたいがFranをかじる
水しぶき綺麗な反射とすぐ消える性質で夏は構成される